

平成 30 年 12 月

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「平成 29 年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員

<委員長>

- ・吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)

<外部委員>

- ・大野 慎 (一般社団法人 秋田県情報産業協会 人材育成委員会 副委員長、山二システムサービス株式会社 専務取締役)
- ・近江谷 功 (秋田商工会議所 事務局長)
- ・櫻庭 咲子 (秋田市立 秋田商業高等学校 教諭)
- ・鈴木 淳悦 (中通総合病院 医事課 事務次長兼外来マネージャー)
- ・森田 健一 (秋田ビューホテル 総支配人)

<学校側>

- ・小野 巧 (校長)
- ・小玉 拓子 (事務長)
- ・小杉 咲子 (学生部 部長)
- ・米谷 久志 (教務部 部長、情報システム科 主任)
- ・藤井 耕太郎 (教務部 副部長、高度 I T エンジニア科 主任)
- ・大石 卓司 (ビジネスキャリア科 主任)
- ・館岡 美紀 (医療事務科 主任)
- ・菊池 仁 (ホテル・ブライダル科 主任)

第1回 学校関係者評価委員会

日時：平成30年6月21日（木） 17：15～18：05

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

学校側から、以下の資料が提示された。

- (1) 専修学校における学校評価ガイドライン（一部抜粋）
- (2) 平成29年度自己評価報告書

学校側より、以下の説明がなされた。

- (1) 学校評価について
 - ① 学校評価の目的
学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進。
 - ② 学校評価の定義
 - ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
 - ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
 - ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価
- (2) 外部アンケートの実施について
学生を対象に、平成29年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。
- (3) 自己評価について
「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

<委員からの指摘等>

委員より内容の確認、コメントがあったものを以下に挙げる。

- 情報システム化等による業務の効率化について、出席状況等のデータを手作業で算出していることについて、先生方は入力するだけで、チェックするのは自動機能にすることで効率化を図れるのではないか。
- 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組について、分野によっては、関連する研修会等の実施頻度が低いため参加が難しい場合があるようだが、それを解消するための対策を立てることで評価を上げられるのではないか。
- 退学率の低減について、評価方法としては退学率よりは退学者数で行った方が良いのではないか。また中々難しい部分だと思うが、できるだけしっかりとした学校生活を送られるように支援をしていただきたい。
- 学生募集活動について、学校のL i n e @に登録をしているが、あまり情報が来ないと感じている。ホームページの更新と同じようにL i n e @も頻繁に情報更新が行われることを期待する。
- SNS等はどのツールを使っているのではなく、どう見せるかが大事である。例えば、卒業生・在校生の社会的な活躍の様子をL i n e @などで発信すれば「自分もそうになりたい」と注目を集められるのではないか。
- 学生のボランティア活動数の目標と達成のための計画があれば良いと思う。具体的な目標を掲げればさらに良くなると思われる。

以上

第2回 学校関係者評価委員会

日時：平成30年11月21日（水） 17:15～18:00

場所：学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 103・104教室

学校側から、以下の資料が提示された。

- (1) 資格取得達成状況
- (2) 就職内定実績
- (3) 学校見学受け入れ状況、出前授業実績、ジャンプアップ講座、その他平成30年度取り組み
- (4) 平成30年度私立大学等即戦力人材育成支援事業
- (5) 定着率調査結果（平成27～29年度分）

学校側から配布資料等について、以下の説明がなされた。

- (1) 平成30年度中間報告について
 - ①資格取得達成状況
 - ②就職内定実績
 - ③学校見学受け入れ状況、出前授業実績、ジャンプアップ講座、その他平成30年度取り組み
 - ④平成30年度私立大学等即戦力人材育成支援事業
 - ⑤定着率調査結果（平成27～29年度分）

<委員からの指摘等>

委員より内容の確認、コメントがあったものを以下に挙げる。

- 資格取得達成状況について、平成29年度の目標の欄はあるが、平成30年度の目標の欄が無いので、欄があった方が達成率は分かりやすくなる。
- 「高度ITエンジニア科」の内定率について、前期末0%から年内100%へと急激に増加しているのはなぜか。理由があるならば補足した方がよい。
- 平成29年度の卒業生の離職者が8名で、内訳をみると医療事務科の学生に偏っている様だが、何か理由があるのか。また、平成28年度では、ホテル・ブライダル科の学生が極端に多いが、理由があるのか。理由があるならば補足した方がよい。
- 定着率というのは、当初就職が決まった企業に対しての数字であり、たまたま最初の企業が合わなくても、その後で転職して働いているのであれば、それ程マイナスの要素ではないと考えられる。今後はその辺りも補足して頂けると大変ありがたい。
- 企業と連携したIT人材育成において、ドローンの空撮やETロボコンが非常に多いが、その関係で就職率が上がったなどの実績はあったのか。実際にドローン进行操作する事に

よって就職に役立つのかどうか、またロボットについても、取り組む事は重要だが、それによって就職に対する効率的な活用方法などはあるのかどうか。その辺りについて、補足して頂けると大変ありがたい。

以上